

本社『南會探訪班』

元氣で今曉出發す

踏破七十里・旅程十日間の壯圖

若松へ今朝六時半着

本社夏の讀物『南會の神秘境を探索』記事及びスケッチ擔當者福島縣師範學校選拔本社特派師範生小林金次郎、熊田大三君はいよいよ今曉壯途に上つた小林君は二十五日午前一時五十九分本社員に見送られ福島出發郡山にて郷里岩瀬郡長沼町より出發した熊田君と會し、四時二十六分郡山發、若松驛へ六時三十三分到着、こゝにて本社若松支局員に迎へられ愈々南會入りをなし湯の上にて本社熊耳田島支局長と連れ立ち愈々奥地踏破の歩につくのであるが、兩君とも

出發に際して

小林金次郎



櫻の梢たかく葉を登りて、より高き未知の世界に憧れを放つものは、ただに幼き子供たちのみならず多くの大人に於てもさうでありま

せう。それ故にこの福島民報社の御企ては誠に興味深く且意義深きものであると信じます。それにつけても私たちの使命は重く、又この旅に際して病床より書を以て『成功を祈る』と激励された恩師木口先生の御言葉をお思へば、實に感慨無量なるものがあります。

南會探訪行進曲

小林金次郎

路は遙かに七十里
けふは麓の峰の上
明日は撫の叢分けて
南の郷へ我はゆく
知るや琥珀の山の空
知るや無限の蒼き湖
水邊に群るる白鷺よ
南の郷へ我はゆく
探し求めん山の富
訪ひて語らむ水の精靈
奇しき南の傳説
南の郷へ我はゆく

土を噛むともこの榮ある仕事を完成しなければならぬと考へて居ります。幸ひにして親愛なる皆様の應援により無事に仕事を

を爲し遂げることもできるのを自ら祈つて居ります。

熊田大三

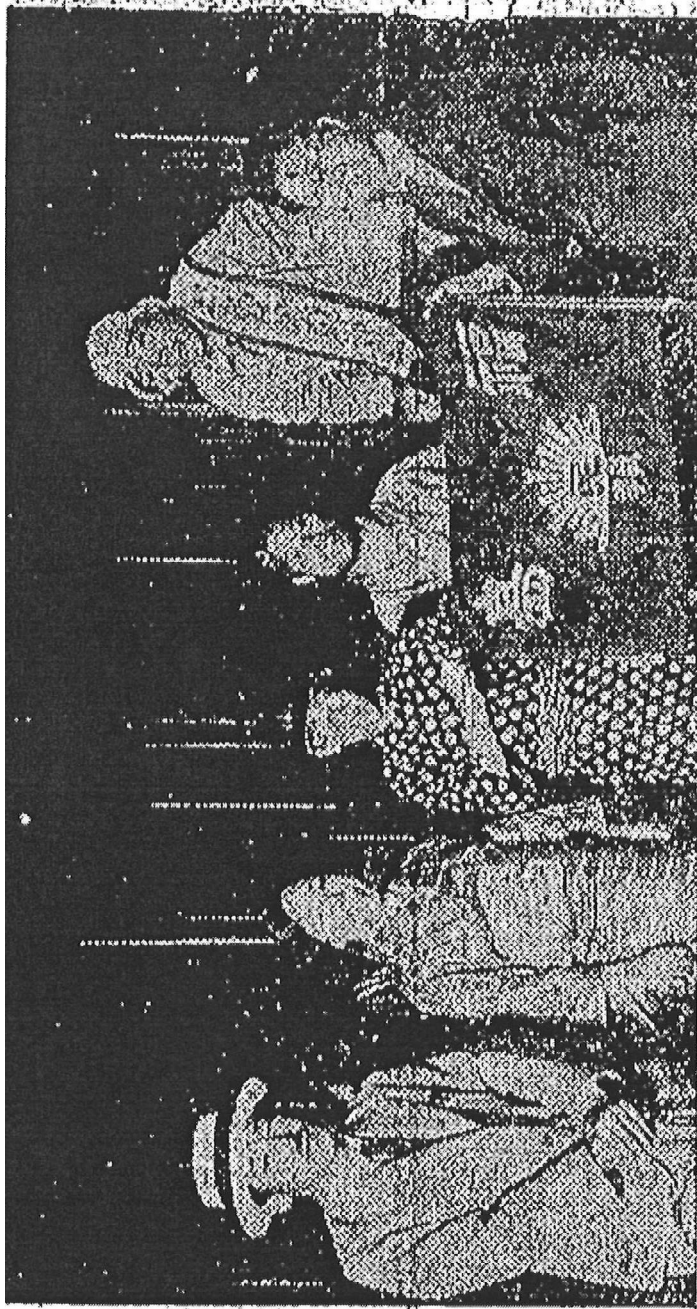


私は去年から、あの南會津の尾瀬沼を何程も探つてゐたかわからな。毎日のやうに、幻を描いてゐた。あの、尾瀬の大自然の中に、したつて、全身全霊を捧げ、無我の境に入つて、十分腕を、振ふ時が來た。私は幸福です。誰に感謝してよいかわかりません。私は旅が、大好きです。そうして描く事です。私に描く事を奪つたら、生きてゐられない。描く事が唯一の楽しみです。大自然は大きな手を上げて、まつてゐます。私はなにもかも忘れて、急ぎます。今度の旅行で、私のスケッチが、みなさんに、満足をお與へるかに疑問です。しかし私は全我的な努力を打込んで、描きます。

本社『南會探訪班』 けさ愈々壮途へ

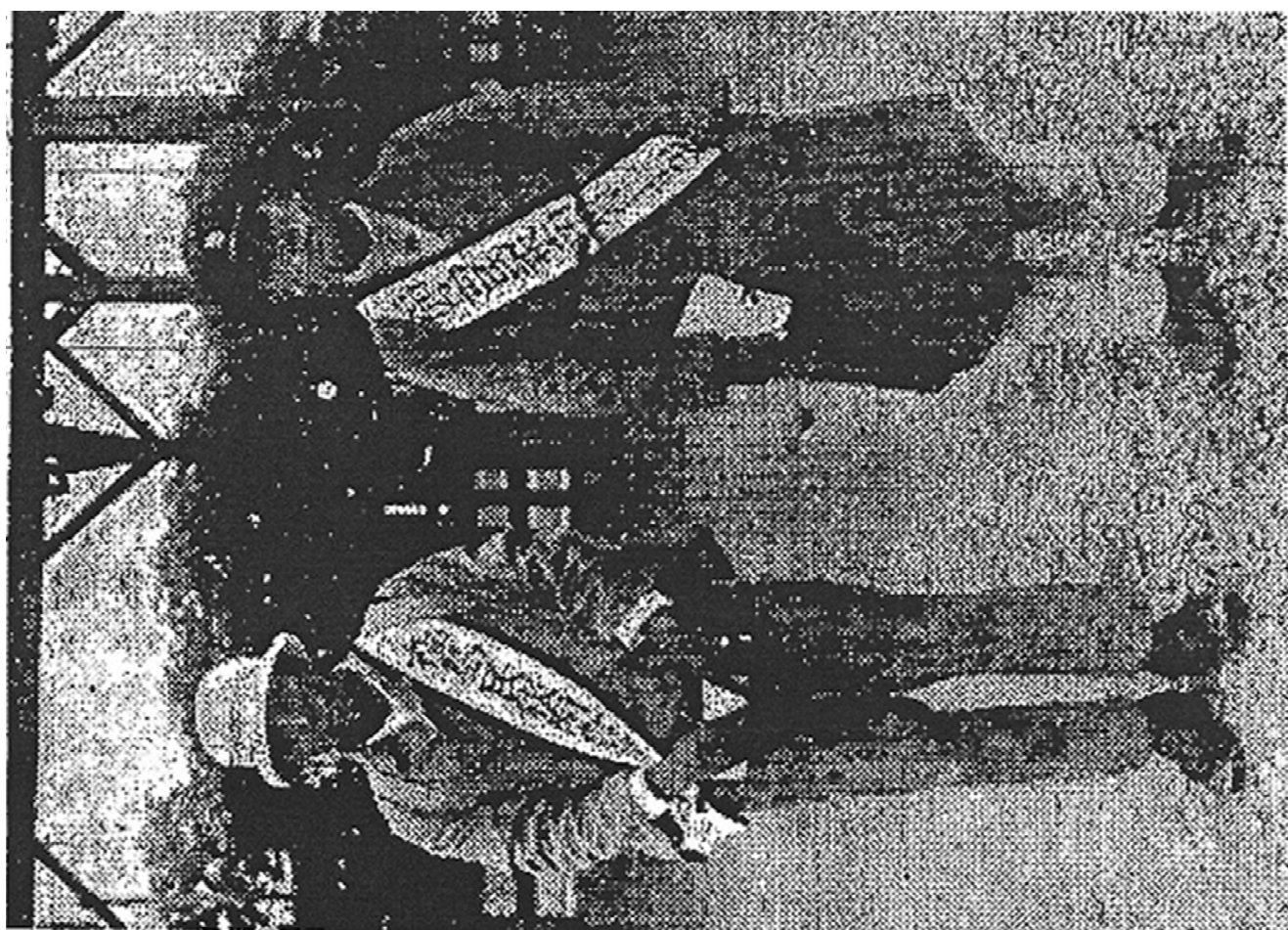
兩君元氣いっぱいで出發

あすから南會の旅



要の南會興地に
凝く分け入つて
本紙に凝縮く
が城き興來ある
讀物を
凝縮せんとする
本社南會探訪班
本探男子師範學
徒生徒小林金次
郎、熊田大三の
兩君はいよく
今二十五日拂曉
元氣いっぱいの
壯途に上つた。
小林君は午前二
時五十九分上り
國島發列車で本
社邊鐵道局次
長、前内、長谷
川、永澤等の各
區長、令兄小林
金太郎氏夫妻に
見送られ、コッ
クサククに身を
かためて出發、
熊田君は須賀川
より同列車に乗

車、兩君は郡山で落着いた上野總
西線に 乗り替へ午前六
時三十三分發着直ぐに本社に向
けて『サウトニク・クマコニ
ヤシ』と打電、更に自動車によつ
て田島に向つた。同夜は田島に一
泊、明朝いよく兩君のほかには
社熊耳田島支局長の一行は豫定の
コースにつくことになった
(眞實は壯途に上る小林君けさ
國島發で)



社本 南會探訪班一行

先づ湯花に出發

絶好の旅行日和に恵まれ

昨朝田島を立つ

【廿六日午前九時田島支局發】廿五日未明霧島を發つて以來元氣いっぱいの本社南會探訪の班が林田兩君は昨日一氣に田島町に到着當地に一夜いよく廿六日午前九時コースを南會の繁地に向けて本社田島限身支局長と共にスタートを切つた天候は曇り勝ち遠くの緑をかすめてしきりと飛ぶがしかし雨はなく旅にはもつてこいの日である。二人とも身證のコンディションも上々でしめり氣のある道を踏んていま湯花に向けて出發する處だ。奥深い山並がはてしなくつゞいてゐる。(寫眞は若松驛頭の兩君、向つて右田島君左小林君)